

令和6年9月27日
 健康福祉部疾病対策課
 043-223-2574

感染症予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症（O157）		
住所	松戸市	年齢・性別	36歳・女性
職業等	会社員	症状等	下痢、腹痛、血便、発熱、溶血性貧血、急性腎不全、溶血性尿毒症症候群（HUS）
発病年月日	令和6年8月31日	届出年月日	令和6年9月24日
<p>松戸市在住の36歳の女性が、下痢、腹痛等の症状を呈し、溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症した。その後、血清学的検査によって細菌の抗体検査が陽性となり、腸管出血性大腸菌感染症と診断され、印旛保健所へ発生届が提出された。</p> <p>患者は入院していたが、症状は快方に向かい、現在は退院済みである。</p> <p>【患者発生の経過】</p> <p>8月31日 下痢、腹痛等の症状が発現。</p> <p>9月1日 医療機関Aへ救急搬送。補液・抗菌薬の投与を受ける。</p> <p>9月2日 血便が10回以上続き、再度医療機関Aを受診し、入院。同日検便を実施したがO157の培養検査は陰性だった。</p> <p>9月6日 溶血性貧血などHUSを疑う所見が確認されたため、医療機関Bへ転院。医療機関Bにおいて再度検便を実施したがO157の培養検査は陰性だった。</p> <p>9月19日 国立感染症研究所で検査するため、検体（血清）を採取。</p> <p>9月20日 検体を国立感染症研究所へ搬入。同患者は症状が軽快したため、医療機関Bを退院。</p> <p>9月24日 患者の検体中からO157凝集抗体が検出。医療機関Bから腸管出血性大腸菌感染症の発生届が提出。</p> <p>【県民の皆様へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理や食事の前、動物や土に触った後には、必ずせっけんを使用して十分に手を洗いましょう。 細菌が残っている場合があるため、肉を食べる場合は、中心部まで十分に加熱したものを食べるようにしましょう。また、「生肉を扱う調理用の箸やトング」と「焼けた肉を扱う食事用の箸やトング」とを必ず分けましょう。 溶血性尿毒症症候群（HUS）など非常に重症な状態になる場合もありますので、下痢、血便等の症状がみられた時は、早めに医療機関を受診しましょう。 社会福祉施設、介護保険施設、学校等においては、日頃から職員、施設利用者等の健康管理に注意しましょう。 			

【参考】

腸管出血性大腸菌感染症とは

1 感染経路

- ・腸管出血性大腸菌は牛など家畜の腸管内にすることがあり、その糞便で汚染された食品や、糞便で汚染された場所を触った手指から経口的に感染する。

2 腸管出血性大腸菌とは

- ・大腸菌の中にはベロ毒素を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす腸管出血性大腸菌と呼ばれているものがある。代表的なものは「腸管出血性大腸菌 O157」で、そのほかに「O26」や「O111」等が知られている。

3 潜伏期間

- ・3～5 日がもっとも多い。

4 症状

- ・腹痛、水様性下痢、血便
- ・嘔吐、38℃台の高熱
- ・重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS*）になる場合もある。

*HUS とは

溶血性貧血、血小板減少、急性腎障害の3主徴をもって診断する。一般に HUS は腸管出血性大腸菌感染症の患者の約 1～10%に発症し、下痢あるいは発熱出現後 4～10 日に発症することが多い。

5 治療

- ・対症療法
- ・脱水に対する処置（補液など）

6 腸管出血性大腸菌感染症の年別届出数（括弧内は HUS の発症者数）

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年※
千葉県	124(2)	131(2)	149(3)	154(3)	129(4)
全 国	3,088	3,236	3,352	3,811	2,503

※千葉県分は 1 月 1 日～9 月 25 日までの累計(本件を含む)。全国分は 2024 年第 37 週現在。